

新翔高等学校

実施日時	令和2年10月16日（金）
参加者	生徒97名、教職員9名、計106名
実施内容	土砂災害に関する防災学習

1 ねらい

- 1 近年、増加する豪雨による土砂災害について理解を深める。
- 2 紀伊半島大水害の状況や体験談を通して、災害時、自分の取るべき行動を考える。

2 主なプログラム

- 1 事前学習 教員の防災委員が授業（くらしと建設）の中で実施。
7月 『防災ハンドブック』を使い、災害が起こったときの行動や事前の準備について学ぶ。
9月 『「災害の記憶」を未来に伝える』を用いて、特に津波と土砂災害に関する内容、地元地域の内容に重点を置いて学習。
- 2 和歌山県土砂災害啓発センターの方を招き、紀伊半島大水害の被害状況とその原因、土砂災害のメカニズムなど、豪雨による土砂災害について学ぶ。また、紀伊半島大水害被災者による体験談（語り部による紙芝居）や、事後の聞き取り調査の話聞く。最後に、学習した内容や、災害に関する〇×クイズを通して、知識の確認をする。

3 概要

1 事前学習

『防災ハンドブック』や『「災害の記憶」を未来に伝える』を使い、過去の事例、災害が起こったときの行動や、事前の準備の必要性、どんな準備をしたら効果的かなどを学んだ。

2 当日の内容

①和歌山県土砂災害啓発センター 坂口 隆紀 氏より、紀伊半島大水害の被害状況とその原因、土砂災害のメカニズムなど、豪雨による土砂災害について話を聞いた。実際の土石流の映像の迫りに生徒たちは驚いていた。

②紀伊半島大水害の被災者であり、その後防災士として自らの体験を紙芝居で語り継ぐ語り部 久保 榮子 さんより、その当時の体験を紙芝居として聞く。家族や地域の方との最後の会話や、後悔など細やかに話をしてくれた。また、災害後、時間が経過してはじめて話ることができる地域の方の聞き取り調査の様子なども伺った。その中で、「脱兎の勢い」で逃げることの大切さを強く訴えていた。



③当日の話を理解できているか、確認を○×クイズで行った。また、災害が起こったときにどのように対応するべきか、事前の準備をどのように行うべきかについて、考えることができた。



4 参加者感想文

- ・坂口さんの土砂災害の話で、(中略)土石流はよく聞くのですが、あんなにも規模が大きいとは思いませんでした。木や大きな石がああのスピードで流れてくると思うと、命がいくつあっても足りないと思いました。
- ・久保さんのお話で、とても大事なことを聞けました。紙芝居で、家族と一緒に最後まで頑張る、あきらめずに絶対に生き残ると言っていたのを聞いて、すごいと思いました。自分一人のことでなく、家族一緒に避難することが大事だと思いました。僕も人のために一生懸命助け合いながら、絶対に生き残ることを忘れずにいたいと思います。
- ・久保さんのお話を聞いて、とても心が痛くなりました。本当に命は大切だと想いました。避難するのが遅かったせいで、たくさんの方が亡くなり、大切な人、家族が突然いなくなり、被害に遭った人はどれだけ悲しいことなのか想像しただけでとても辛かったです。自分の命を守るためにも、避難ルートや土砂災害が起こりやすい場所などを確認して、すぐに逃げられるようにしたいです。避難しなければいけなくなったときは、近所の人にも声をかけたり助け合ったりして、素早く避難したいと思います。
- ・実際に体験したことを話すことは、辛いことだと思います。紙芝居の中で再現されている土砂災害の様子は、その人の目に映っていることをそのまま映したもので、とても怖いと思いました。(中略)今後大きな災害が来るかもしれない、死んでしまうかも知れないと予測して、自分や家族が元気に生きていくために、日頃から緊急用のカバンを用意しておこうと思います。

5 成果と課題

【成果】

今年度は、新型コロナウイルスの対策が十分にとれないかもしれないことを鑑み、例年実施している班別学習(パーティーの設置・解体、ワークショップ、炊き出し・配膳訓練、聞き取り調査など)を実施することを断念した。代わりに和歌山県土砂災害啓発センター 坂口所長による土砂災害に関する防災学習と、紀伊半島大水害の被災者による紙芝居を中心に実施した。体験者による話は臨場感があり、その言葉は生徒の心に深く届いたことが感想文からもうかがえた。また実際に避難を意識して緊急持ちだしカバンを作った生徒もおり、災害を自分にも起こり得ることと実感できたと思われる。よい講演をしていただけたと感謝している。

【課題】

防災スクール本来の目的の一つである、生徒自身が参加体験できるようなプログラムを用意することができなかった。共通して利用するものの消毒や、校外の人との交流について、十分な対策ができるか心配だったためである。次年度以降は、新型コロナウイルスの状況を見ながら、本来の形の戻せるように考えていきたい。